

川口小学校 PTA の取組み

川口小学校 PTA

1 川口小学校の概要

本校は全校児童27名。学級数は6学級。家庭数は21家庭。教職員数は11名の小規模校である。本校は、旧窪川町の中心地より約7km西によった国道381号線沿いに位置している。国道に並行して流れる四万十川の景観には、四季折々の美しさがある。校区は、周りが山や川など自然環境に恵まれた山村地帯である。平成23年4月に家地川小学校と統合して校区が広がり、家地川ダムとその桜並木も加わり、美しい景観が広がっている。

子どもたちは素直で元気いっぱい、学校生活を送ることができている。また、掃除や行事を通して学年を越えた縦割り班で活動することも多いため、異学年の友達とも仲よく過ごしている。

2 本校 PTA の組織

本校 PTA は、会長・副会長のもと、事業委員（田んぼ委員も兼務）と子ども会委員で構成している。全家庭がいずれかの委員や役職に所属し、会長や委員長のリーダーシップのもと、事務局である教頭先生と連絡を取り合いながら、活動を進めている。

(1) 事業委員

事業委員は、田植えや稲刈りを始めとした学校水田での活動や11月に行われる収穫祭の運営等を担当している。

(2) 子ども会委員

本年度はコロナウイルス対策のためにいくつかの予定していた活動が中止になってしまったが、「子ども駅伝大会」の世話等を担当している。

3 今年度の主な取り組み

(1) 愛校作業

8月には校舎内や運動場の清掃作業を行った。年々、児童数が減少していることから、日常の掃除では行き届かない箇所が多くなっているため、この愛校作業により学校の隅々まで美しくするように努めた。

今年度も、ほぼ全家庭の参加により、子どもたちの学ば環境を向上させることができた。



(2) 地域防災学習

近年、愛校作業に引き続き、地域の方にも呼びかけて起震車体験・煙体験学習を行っている。この体験学習を継続していくことで、日頃からの防災への備えについて理解を深めることができる。体験後の児童の感想では、「震度7がこれほど揺れるとは思わなかった。」や「日頃から、

地震への備えを家でもしっかりやっていきたい。」という声も聞かれた。

(3) 子ども防災キャンプ

川口小学校では、昨年度、初の試みとして、高知県土木部防災砂防課の協力により、地域の方にも呼びかけて実施した。具体的には、起震車体験や降雨体験に加え、炊き出し訓練や土石流3Dシアター等、全部で10個の体験プログラムを設けて実施した。子どもたち、保護者、地域の方は10のグループに分かれて、多くの活動を体験した。

この行事により、児童や保護者だけではなく地域の方々にも、学校での学習について知っていただくと共に、防災についての啓発を進めることができた。

(4) 田植え

田植え委員さんが、苗の持ち方や植え方等を丁寧に指導していただき、全校のみんなが楽しく田植を体験することができた。1年生は、初の田植え体験だったが、すぐにコツをつかみ、上手に植えることができたようになった。

その後も、稲の成長のための管理に加え、委員が年間数回集まって草刈り等の作業も行った。



(5) 稲刈り

田植えの時よりも多くの保護者の方が参加していただき、子どもたちと共に豊かに実ったお米の収穫を喜び合った。収穫したお米は、調理実習や11月の収穫祭に使用した。

また、稲刈り後、ある児童の祖父母の山で栗拾いをさせていただくこともでき、秋の収穫を堪能した1日となった。



(6) 収穫祭

午前中に保護者と教職員、児童が学校水田で収穫した米を使ってカレーライスとして食べたことに加え、餅つきや餅丸め等をした。主に、父親はかまどや餅つき、母親は餅丸めやパック詰め等の担当に分かれて活動した。実際に収穫したお米を頂くことで、田んぼ委員や協力頂いた地域の方々への感謝の気持ちを再認識することができた。



また、この活動への保護者の参加率は9割を超え、PTA 会員全員で学校の行事をより良いものにしていこうとする気持ちが高まってきたことを実感した。

(7) 学習発表会

本年度の学習発表会は、これまでの学習の成果として、各学級から体操、劇、社会見学や修学旅行の成果紹介等、様々な内容で発表された。地域の方には、事前にチラシや放送などで参加を呼びかけ、コロナ禍の影響があったにもかかわらず多くの方が参観して下さった。また、来校して下さった地域の方には餅3個と米3合をお土産としてお渡しした。地域の方は、子どもたちのがんばりをとても喜んでくださり、「また、来年も来るからね。」と言ってくださる方もいた。



4 成果と課題

(1) 成果

① PTA の団結力の強まり

各委員の活動や学校での行事などを通して PTA の団結力が強まったことを実感した。今年度はコロナ禍の中での活動ということもあり、行事の中止や縮小などを検討しながら取り組んだ1年であった。その中でも、忙しい合間をぬって多くの PTA 会員が積極的に参加し、活動がより良いものになるように取り組んだ。この姿勢と意欲は、川口小学校 PTA の今後の財産として継続していきたい。

② 子どもたち主体の取り組みの実践

田んぼや収穫祭の活動に代表されるように、PTA のサポートにより子どもたちが生き生きと活動する姿が多くで見られた。今後も「子どもたちのために出来ることを」を大切にして、活動を進めていきたい。

(2) 課題

① 新たな PTA 活動の展開の難しさ

本校においては年々、児童数の減少に伴い家庭数も減少している。この点においては、多くの学校が同様の悩みを抱えていることであろう。PTA 会員数の減少は、PTA 活動の前進を阻む大きな障壁となる。今後は、限られた会員数の中でも、「川口小だからできる活動」、「川口小でしかできない活動」を見出し、新たな PTA 活動を創っていきたい。

② 組織の活動や役員の固定化傾向

PTA 会員数の減少に起因する部分が多くあるが、新しい委員を設けたり、新たな役を務めたりすることが難しくなり、各 PTA 会員の負担が年々重くなっているのが現実である。そこで、今後は、委員の活動内容を再度見直し、負担を感じずに取り組めるような組織づくりを進めていきたい。